製品安全ニュース

vol.48

今月のトピックス

カセットこんろに関する事故にご注意を！

カセットこんろに関する事故は、気温が下がり鍋料理等に使用する機会が増える11月頃から増加し始めて12月と1月に最も多く発生し、以下のような事故事例が報告されています。事故原因の約4割は誤使用や不注意によるものです。下記の注意事項を参考に、カセットこんろを使用する際は十分にご注意ください。

【事故事例】

1　ガスこんろの魚焼きグリルを使用した際、グリルの排気口の上に置かれていたカセットこんろが加熱してガスボンベが破裂し、窓ガラスが割れるなどし、一人がやけどを負った。

2　カセットボンベの装着が不完全であったため、ガスが漏れて使用中のカセットこんろから火が出た。

3　ガスボンベのガス抜き作業中にガスが滞留して引火し、木造住宅が全焼した。

NITE（(独)製品評価技術基盤機構）　http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs121220.html

◆　使用の際の主な注意点

（使用時）

○　漏れたガスに引火するおそれがあるため、数回点火動作を行って点火できなかったときは窓を開けて換気を行い、時間をおいてから点火を行う。

○　カセットボンベが熱せられて破裂するおそれがあるため、カセットこんろを複数台並べて使用しない。

○　カセットこんろを覆うような大きな調理器具（鉄板、鍋等）、石綿やセラミック付魚焼き器や焼き網、陶板プレート等の蓄熱性のあるものは使用しない。

（保管時）

○　カセットこんろを他の熱源（ガスこんろ、電気こんろ等）の上などに置かない。

○　使用後はカセットボンベを外し、カセットボンベにキャップをして保管する。

○　パッキンの劣化によりガス漏れを起こし、漏れたガスに引火したり破裂するおそれがあるため、製造から長期間経過したカセットこんろの使用は控える。

（カセットボンベ）

○　カセットボンベは取扱説明書を読み、こんろに正しく装着する。

○　カセットボンベを廃棄する際は、火が消えるまで、または振ってもシャカシャカと音がしなくなるまで完全に使い切ってから、お住まいの地域の廃棄方法に従って廃棄する。穴をあけて廃棄する場合は、調理場や台所などの密閉された場所は避け、風通しのよい屋外などで行う。

ガス炊飯器による事故

現在は、ガス炊飯器よりも電気炊飯器の方が普及しているようですが、ガス炊飯器も使用されており、ガス機器特有の事故も起きていますので、使用の際はご注意ください。

（事例1）使用中のガス炊飯器から火が出て、指にやけどを負った。

→　異物が炊飯器内のバーナー部に入った状態で炊飯器を点火したため、異物に着火したものと考えられる。

（事例2）ガス炊飯器の点火操作を繰り返したところ、着火時にまつ毛が焦げた。

→　点火操作の繰り返しにより器具内にガスが充満し、爆発的な着火を起こし、瞬間的に点火確認窓からあふれだした炎でやけどを負ったものと考えられる。

（事例3）炊飯中の炊飯器から炎が上がり、床が焦げた。

→　当該機器は専用のホースで接続するように指定されていたが、被害者が誤ってゴムホースで接続したため接続部からガスが漏えいし、炊飯器の火が引火したものと推定される。

◇ 平成24年11月の重大製品事故公表情報については、消費者庁のホームページをご覧ください。
（http://www.caa.go.jp/safety/index.html）

【発 行】 長野県 企画部 消費生活室
電　　話：026－223－6770
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.nagano-shohi.net/seihin-anzen/